

## 『十年後のぼくへ』

福島県

会津白虎剣士会

小学5年 渡部 敬仁

はいけい、十年後のぼく。元気にしていますか？二十才ですね。どんな二十才ですか？お父さんやお母さんに心配をかけていませんか？剣道や勉強、仕事をさぼったりしていませんか？人に失礼な態度をとっていませんか？

今のぼくは、剣道をがんばっています。なかなか勝てませんが、色々な事を学んでいます。今日は、今のぼくが剣道で学んでいる事を、十年後のぼくが忘れないように手紙を書きます。

一つ目は、「感謝する気持ち」です。

剣道は、一人では出来ません。けい古をつけてくれる先生、先ばい、仲間がいないと、ぼくは強くなれません。試合も、試合相手がいないと出来ません。だから、けい古の時も試合の時も、そんきよをして相手に礼をつくします。応えんしてくれる人達にも感謝しなければなりません。

試合のたびに遠くから来てくれるお父さん。けい古の日には早く帰って来てくれるお母さん。親が行けない試合の時に面どうを見てくれる剣士会の仲間のお父さんお母さん。ぼくは、たくさんの人に見守られて剣道が出来ます。また、ぼくは、鶴ヶ城の中にある「武徳殿」という道場でけい古をしています。武徳殿は、とても歴史がある道場で、たくさんの先ばいもけい古をしていました。そんな立派な道場で、けい古が出来る事にも感謝しなければなりません。けい古が終わって外に出ると、鶴ヶ城が「がんばったね」と言ってくれるような気がします。そんな武徳殿が大好きです。

二つ目は、「いやな事から逃げない、最後までがんばる気持ち」です。

剣道のけい古はつらいです。先生に大きな声で注意されたり、強く打ちこまれたりします。かかりげい古では、息が出来ない位つかれ面を外したい時があります。でも、ぼくは面を外しません、弱い自分に負けたくないからです。それから、ぼくの目標は「けい古を休まない」「毎朝すぶりをする」です。これも、時々「やりたくないな」と思う事があります。でも、一度休むと休むクセがつきそうなので、毎日コツコツ続けています。ぼくは、剣道が下手なので、試合相手には勝てませんが、弱い自分には絶対負けたくないです。今のぼくががんばっているのは、十年後のぼくが立派な二十才になるためです。そして、大きな大会で活やくするためです。つらい事から逃げてしまえば、活やくする可能性はゼロだけど、がんばっていれば可能性はゼロではないと思います。十年後のぼくも、そんな気持ちを忘れてほしくないです。

十年後のぼくは「会津白虎剣士会のちかいの言葉」を覚えていますか？

「ちかいの言葉

私達は、会津白虎剣士としてのほこりを持ちならぬ事はならぬという精神で学業と剣道にしょう進し根性を養う事をちかいます」

今のぼくは、会津白虎剣士としてのほこりを持ってがんばっています。  
十年後のぼくも、会津白虎剣士だったというほこりを持って、二十年後、三十年後のぼくのためにがんばってください。

では、さようなら。